

# 平成 26 年度 研究成果報告書

## Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅢ講座・講師
氏名 Name	西岡 美樹
専門分野 Academic Field	言語学・ヒンディー語学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	ヒンディー語と日本語の言語対照研究
<p>今年度は、前年度終了した「ヒンディー語と日本語の属格後置詞および格助詞・準体助詞の対照研究」(科研費[課題番号: 23652084])の、日本語の格助詞・準体助詞「の」、ヒンディー語の属格後置詞'kā'および接辞'vālā'の機能をまとめたものを再度吟味し、属格後置詞や接辞'vālā'を用いた句構造、節による名詞修飾句の構造について、昨年 8-10 月に別用務でインドに滞在した際に大学で日本語を学習しているヒンディー語母語話者と、意見交換や議論を行った。</p> <p>一方、「動詞連結に関するヒンディー語、マラーティー語、ネワール語と日本語との対照研究」(科研費[課題番号: 20520384])の続きとして、日本語のテ形+補助動詞「しまう」と否定辞との共起関係をデータベース(国立国語研究所が提供する BCCWJ)をもとに調べ、その成果を論文にまとめて公表した。また、その成果を XXVIIes Journées de Linguistique d'Asie Orientale (INALCO, 26-27, June, 2014) で発表した。対照研究の対象言語となるヒンディー語については、日本語のように大型のデータベースや統計言語学的な手法をとるための検索環境が整っていないことが、自然言語処理、コーパス言語学関連の専門技術者に協力いただいた年度初めの事前調査で判明した。それらを整えるための調査をさらに行った結果、まず web データベースを試験的に構築して現状を詳細に把握することにした。足掛かりとして、以前、同動詞連結の科研の際に個人で作成したデータを修正、点検し、今回データとして利用できるようにした。また、前述の専門技術者に協力をいただき、試験的に web 上のデータを収集することも試みた。その結果、Devanagari 文字を使うヒンディー語を処理する際の、英語などでは見られない独特かつ重要な問題点がいくつか浮かび上がった。目下、これらに対処するための別作業の必要性についてアドバイスをいただき、今後の進め方を吟味している。</p> <p>さらに、国立国語研究所の他動性プロジェクトについての、前年度執筆したヒンディー語と日本語の自動詞・他動詞に関わる対照研究の論文の加筆、修正作業を行った。また、研究分担者として参画した「地域的視点導入によるウルドゥー語・ヒンディー語文法教育の改善に関する研究」(科研費[課題番号: 23652138])の一部成果で発表した「ビハーリー方言にみられる標準ヒンディー語の影響—形態・統語的特徴に焦点をあてて—」についての論文を公表することに努めた。</p> <p>最後に、日本とアメリカでのヒンディー語教育に関する論文”Types and Needs of Modern Hindi Language Learners in the US and Japan: Towards Proper Methods and Programs for Hindi Language Teaching”(共著)を、日本南アジア学会第 27 回大会(9 月 27-28 日、大東文化大学)で発表した。</p>	